

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和2年度学校評価 結果

達成度（評価）	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	例年通りといった慣例にとられない校務体制・意識を持つことに努め、工夫した校内研修・ミニ研修の設定で、職員の間が同一方向に向かう学校体制が築かれてきたことが大きな成果であるとする。この体制の継続を図りながら、教職員個々の指導の差を縮めていくことが重要と考える。また、教育活動について、児童の主体的な活動を推進し、教師が支援していく体制づくりを目指していく。
2 学校教育目標	『体を強く 心賢しく 学び合う せんだんの子』の育成 ＜健康や安全に気を付けた生活や行動ができる子ども＞ ＜生命あるものを大切に、思いやりの心をもつ子ども＞ ＜自ら学ぶ意欲をもち、人と関わりながら、学び合っていく子ども＞

3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ① 落ち着いた学習環境をつくり、学力の確実な定着と学習意欲の向上を図る。 ② 校内外において基本的な生活習慣を身につけさせ、健康で明るい生活態度を養う。 ③ 自己肯定感を高め、「自分を好きに」「人を好きに」「学校が好きに」「ふるさとを好きに」なる児童の育成を図る。 ④ 校務の効率化を図り、教員の質の向上を目指す。
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上 ○百ます計算で学年目標達成率80%以上	・教職員間でマイプランを共有し、毎月振り返りを行う。 ・週3回の陰山メソッドによるスキルトイの実施	B	・マイプランを実践し、成果指標を達成できた自己申告する教師は90%。 ・週3回のスキルトイは計画通り実施できたが、百ます計算の目標達成率を超えた学級は2クラスにとどまった。	B	・学力向上について各課をともに毎学期研修を行い、マイプランの振り返りを行った。「マイプランを実践し、成果指標を達成できた」と回答した教職員は92%であった。 ・週3回のスキルトイは計画通り実施できた。百ます計算の目標達成率は35%と達成できなかったが、全学年において伸びは見られた。	A	・マイプランの実践や週3回のスキルトイ実施など児童の理解の向上につながったと感じる。	＜まなびづくり部＞ ・学力向上コーディネーター
	○「わかった」「できた」を実感できる授業づくりの推進	○「めあて」と「振り返り」を書くことができる児童90%以上 ○「授業で学習したことがわかる」と回答した児童80%以上 ○「自分の考えを書ける」と回答した児童80%以上	・「授業づくりのステップ1・2・3」を活用し「めあて」と「振り返り」が有機的に連動した授業づくりを推進し、毎月、校内研修等で取り組みを紹介 ・各教科等において、「書く活動」「話し合う活動」の場の設定	A	・「めあて」と「振り返り」を意識し、「書く活動」「話し合う活動」の場を設定した授業を行っているが答えた教職員は87%であった。 ・「授業で学習したことがわかる」と回答した児童は94%であった。 ・授業で自分の考えを書いたり伝え合ったりすることができていると答えた児童は89%であった。 ・校内研究とも関連し、他授業作りが推進できている。	A	・「めあて」と「振り返り」を意識し、「書く活動」「話し合う活動」の場を設定した授業を行っているが答えた教職員は91%であった。 ・「めあて」と「振り返り」を書くことができる児童は94%。「授業で学習したことがわかる」と回答した児童は94%であった。 ・「授業で自分の考えを書いたり伝え合ったりすることができている」と答えた児童は87%で、授業中、意欲的に意見交流する姿が見られた。 ・校内研究により授業力向上を感じた教職員は88%。	A	・授業参観をさせてもらったが、全体的に落ち着いた授業に取り組んでいる姿であった。 ・朝読書、スキルトイの継続的な取組を続けてほしい。	＜まなびづくり部＞ ・研究主任、副主任
	◎学びの目的意識をもった教育活動の推進	◎「自分の目標をもって学校や家での生活ができている」と回答した児童90%以上	・目的や課題意識を持たせた授業づくり ・総合的な学習の時間や学年行事など、地域との連携を推進	A	・自分が頑張ろうと決めたことを学校や家で取り組むことができているか」と回答した児童は91%と解答した児童91%。	A	・「自分が頑張ろうと決めたことを学校や家で取り組むことができているか」と回答した児童は92%であった。 ・学習習慣や授業における目的意識や目標設定、各種賞等の取組により意欲向上につながった。	A	・学習状況調査でどの教科も県平均以上が理想。 ・「考えさせる」ことも必要だが、「覚えさせる」ところはしっかりと知識として押さえることが大切。	・教務 ・各学年主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○道徳や人権に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童85%以上	・ふれあい道徳や人権に関する取り組みについて保護者や地域に情報を発信する。 ・平和集会及び人権集会の実施	A	・道徳の授業参観を3学期に実施予定。人権に関する取り組みについては、学校便り、学級便り等で随時伝えている。 ・平和集会は8月、人権集会は11月に行った。あいさつ・ていねいな言葉遣いについては92%の児童ができていると答えている。	A	・授業参観が実施されず道徳については各学級、学級便りで紹介した。人権に関する取り組みについては、学校便り、学級便り等で随時伝えている。 ・平和集会は8月、人権集会は11月に行った。 ・あいさつ・ていねいな言葉遣いについてはアンケートにて93%の児童ができていると回答した。	B	・コロナ関連で様々な取組が中止や縮小になったが、「できること」を考え、金管バンドの中庭コンサートや「まちかどギャラリー」の取組はよいアイデアであったと思う。	＜こころづくり部＞ ・人権・同和担当 ・道徳教育推進教員
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○「いじめや不登校など、子どものサインを見逃さず、子どもの心情に寄り添う指導を行っている」と回答した教職員90%以上	・毎月の「今の気持ちアンケート」の実施 ・年2回(5月期、10月期)の担任教員と児童個々の「お話し週間」の設定	A	・今の気持ちアンケートは基本的に毎月実施している。お話し週間は1、2学期にそれぞれ全クラスで実施した。 ・いじめや不登校など子どものサインを見逃さず、子どもの心情に寄り添う指導を行っているが答えた教職員は93%であった。	A	・今の気持ちアンケートは基本的に毎月実施した。お話し週間は1、2学期にそれぞれ全クラスで実施した。 ・いじめや不登校など子どものサインを見逃さず、子どもの心情に寄り添う指導を行っているが答えた教職員は99%。	A	・「いじめ」の定義に見られるよう、考え方も以前と変わってきているように思う。小さなことも見逃さないようにしていきたい。	＜こころづくり部＞ ・教育相談担当 ・教頭
	○規範意識の向上	○「神埼市四力条の誓い」を意識した教育指導をしていると回答する教職員90%以上	・「神埼市四力条の誓い」の学級掲示 ・「あいさつ」「返事」「そろえる」をキーワードとした基本習慣の徹底	A	・「神埼市四力条の誓い」の学級掲示は、全ての学級で実施している。 ・「神埼市四力条の誓い」を意識した教育指導をしていると回答する教職員96%。	B	・「神埼市四力条の誓い」の学級掲示は、全ての学級で実施している。 ・「神埼市四力条の誓い」を意識した教育指導をしていると回答する教職員88%。	B	・社会生活を営む上では、規範意識の向上は大切なことだと思うので、よろしく願いたい。 ・ノーチャイムの効果も見られるようた。自分たちで時間を意識して行動することにつながると感じる。	＜こころづくり部＞ ・生徒指導担当
●健康・体づくり	●「安全に関する資質・能力の育成」	●児童生徒の交通事故及び校内事故を防止する。 ○自転車のヘルメット着用率95%以上 ○けが等による保健室入室者5%減	・月に1度ヘルメット着用、防犯ブザー所持の状況を調査し学校便り等で保護者への啓発を図る。 ・遊具での正しい遊び方、教室等での安全な過ごし方の継続指導	B	・自転車で乗るときはヘルメットをかぶっているか」と答えた児童は、92%、防犯ブザーを身につけていると答えた児童は、80%であった。引き続き声かけの必要がある。 ・けが等による保健室入室者は、約5%減。	A	・ヘルメット着用は、90%以上できているが、高学年でヘルメットをかぶらない児童が数名いるので、引き続き指導をしていく。防犯ブザーを身につけることも80%以上できているが、定期的な点検を実施する必要がある。	A	・引き続き、交通安全指導を願う。	＜すこやかづくり部＞ ・安全指導担当 ・教務
	○健康で強い体の育成	○「晴れた日は外で遊んでいる」と回答する児童85%以上 ○「熱中症、感染症などに気を付けている」と回答する児童90%以上	・週1回以上の「学級遊び」の設定。 ・けがが予防、熱中症予防のため外遊びでの帽子の着用 ・適切な感染症対策(手洗い、マスク着用) ・保健だよりの発行	A	・晴れた日は、外で遊んでいると答えた児童は74%であった。外遊び時の帽子着用率は、96%であった。 ・マスク着用は、ほぼ100%できていると答えた。適切な感染症対策が意識できている。	A	・晴れた日の外遊びは、75%以上できていると回答している。目標の85%には届かなかったが、各学級の学級遊びで週に1～2回は、外に出ることができている。 ・マスク着用は、ほぼ100%できているが、休み時間の後や掃除の後に付け忘れがあるので、その都度指導して意識を高める。	A	・昼休みの取組の一つとして、教職員が協力してテレビ番組「逃走中」を模した取組など大変おもしろい。心の教育にもつながると思われた。 ・次年度もコロナがすぐに落ち着くとは思えない。引き続き、感染症対策の継続を望みたい。	＜すこやかづくり部＞ ・体力づくり担当 ・健康指導担当 ・養護教諭
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務等時間の上限を遵守する。 ○全体の時間外勤務平均45時間以下	・パソコンを活用し、事前提案やペーパーレス会議を推進する。 ・見通しをもった行事、授業計画案によりタイムマネジメントを図る。 ・毎月の勤務時間状況のフィードバックによる業務の見直しの徹底	A	・パソコンを活用した掲示板等により会議時間の短縮が図られている。 ・時間外勤務の平均が現在までのところ38時間程度と平均45時間を下回っている。	A	・年間を通じて、PCを活用するなどした会議時間の短縮が図られた。 ・時間外勤務の平均が、35時間程度まで下がり、基準の平均45時間を大きく下回った。	A	・引き続き、会議時間の短縮やパソコンを活用した会議など業務改善を進めていきたい。	・教頭 ・各部長

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価	主な担当者	
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果			
				達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言			
○教職員の資質向上	○実践の共有、実践力の向上	○教職員の資質能力の向上に資する職員研修の実施	・若手教職員を中心としたミニ研修の実施 ・教職員研修における校内講師の推進 ・相互授業参観の実施	A	・ミニ研修会は中堅、ベテラン職員を講師として起用し、10回計画のうち8回実施。 ・各学級の校内研修公開日、特別支援学級の参観週間等を設け、実施した。	A	・ミニ研修会の計画10回を実施できた。内容も学級経営から教科指導、業務改善など多岐にわたる教職員の実践力向上に役立つものであった。 ・通常学級の研究授業参観、特別支援学級の参観週間の実施ができた。	A	・ベテラン職員を講師としたミニ研修など、今後、若手職員が多くなっていくであろう学校現場には、必要なことであろうと考える。	・教務 ・研究主任
○特別支援教育の視点に立つ学級づくり	○個々の特性に応じた指導・支援の充実 ○個々が大切にされる学級風土の醸成	○毎月の子ども支援会議の実施 ○保護者アンケートにより「学校は一人一人の児童が大切にされる学級づくりに努めている」との回答90%以上	・子ども支援会議にて配慮を要する児童の状況について共通理解や組織対応を充実する。 ・学校便り、学級便り等の発行	A	・毎月子ども支援会議を実施できている。また必要に応じてケース会議を開き、組織として対応できるようにしている。	A	・毎月の子ども支援会議を実施し、全職員の共通理解が行えた。また、組織対応も機能しており、担任が一人で抱え込むことがないようだった。 ・保護者アンケートにより「学校は一人一人の児童が大切にされる学級づくりに努めている」との回答93%。	A	・通常の学級にも配慮を要する子どもが在籍している。全職員が共通理解していくことが大事である。組織で対応する体制づくりを今後お願いしたい。	・教育相談担当 ・特別支援教育コーディネーター
○ICT利活用	○教職員のICT利活用能力の向上	○「ICT機器を効果的に生かした授業ができる」と回答する教職員95%以上	・プログラミングに関する研修への参加奨励 ・ICTに関する研修会の実施	A	・「ICT機器を効果的に生かした授業ができる」と回答する教職員は100%であった。 ・初任者を中心にICTに関する研修を実施した。	A	・ICT機器を効果的に生かした授業ができると回答する教職員は100%であった。 ・初任者を中心とした研修の実施、プログラミングに関する外部研修への参加3名ができた。 ・全学年において、プログラミングに関する授業実践を行った。	A	・次年度からタブレットを活用した授業が始まる。どのように進められるのか気がかりである。準備にしっかりと時間をかけてほしい。	・情報教育担当 ・視聴覚教育担当

●・・・県共通 ○・・・学校独自 ◎・・・志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながる」をキーワードに、保護者とのつながりの強化を目指す。 ・教員のビジョンのもと児童主体の活動を活性化させた学校づくりを目指す。 ・GIGAスクール構想を念頭にPC利活用を生かした学力向上を目指す。
--------------------	---